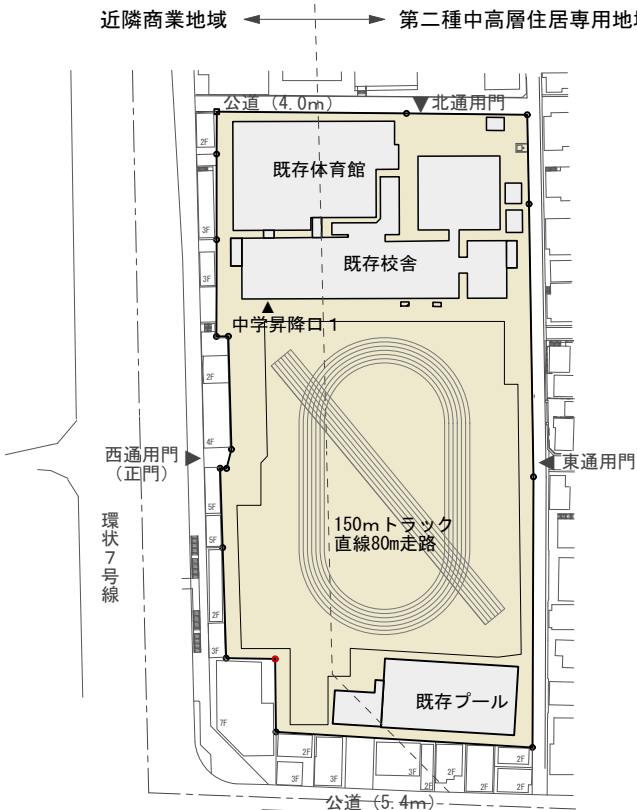
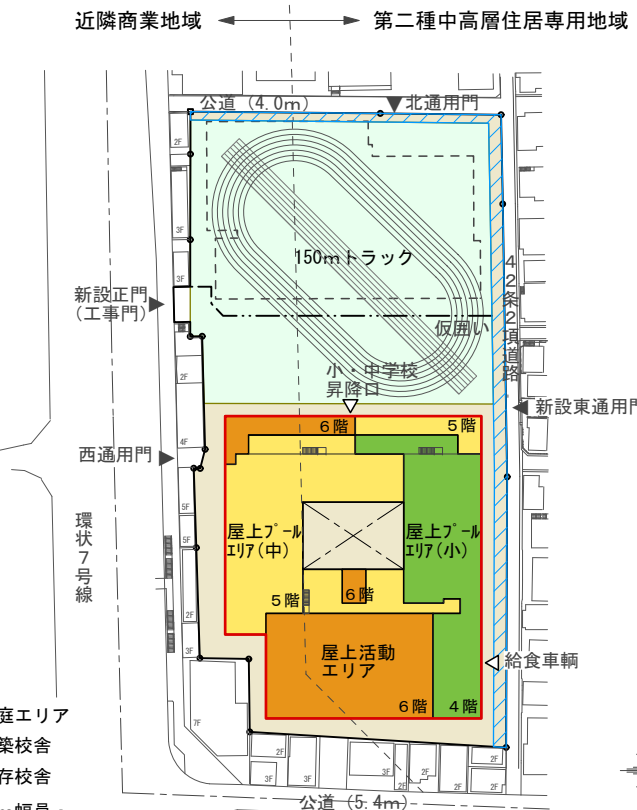
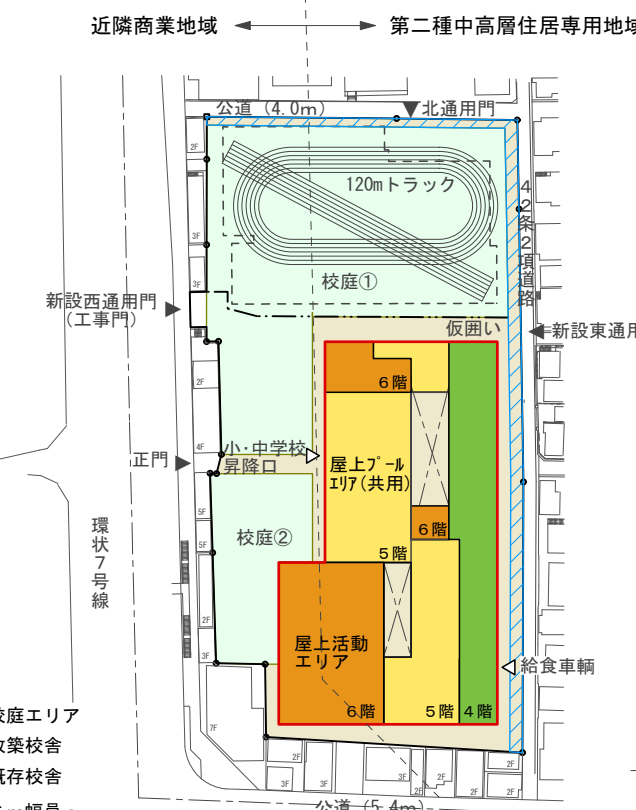


●配置案を作成するにあたっての整備方針

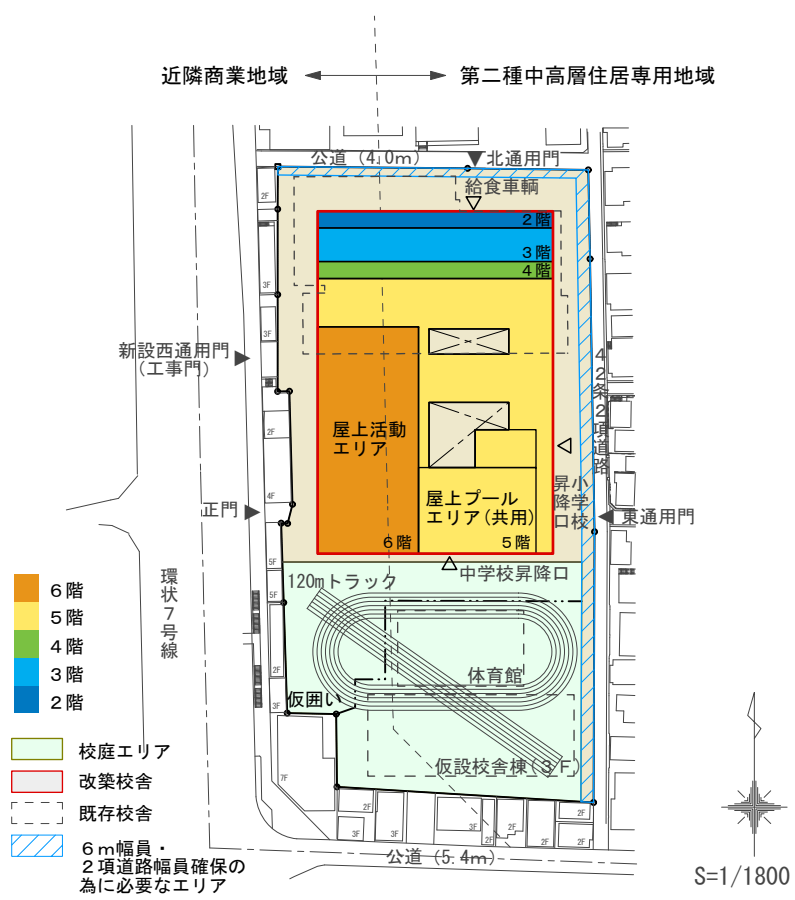
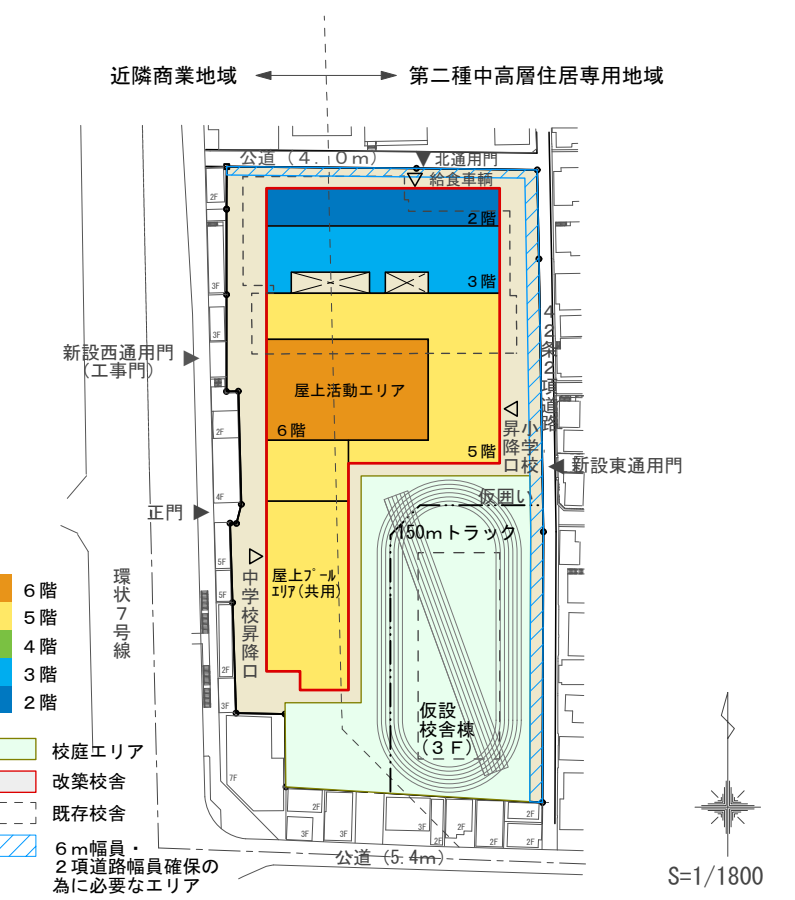
全体的な考え方

- 様々な学年の利用が想定される小中一貫教育校の校庭として、既存の高円寺中学校の校庭面積と同程度の確保を目指し、全体の計画を検討した。
- 児童生徒が運動出来る活動エリアとして、校舎屋上部に安全に活動できる面積を確保する配置計画を検討した。
- 校庭・屋上活動エリアを確保するために、改築校舎をコンパクト化し、5，6階建の校舎を検討した。
- 改築校舎を5，6階建にすることに伴い、周辺の住宅地に与える影響を十分に考慮し、施設の配置計画を検討した。
- 明確な歩車分離や施設の安全管理のしやすさを考慮し、職員が見守りやすく児童生徒が安全に学校生活を送れる施設の配置計画を検討した。
- 中庭等を設けることにより、閉鎖的な施設とならないようにするとともに普通教室への自然採光・通風を確保した平面ゾーニングを検討した。

配置計画案の比較検討

それぞれの 特徴について	既存校舎 建築面積 約 4,006㎡ 延床面積 約 5,926㎡ 校庭面積 約 5,300㎡	A. 南側配置案 (仮設校舎なし) 建築面積 約 4,000㎡ 屋上活動エリア 約 990㎡ 延床面積 約 16,320㎡ 校庭面積 約 4,800㎡	B. 南東側配置案 (仮設校舎なし) 建築面積 約 4,050㎡ 屋上活動エリア 約 900㎡ 延床面積 約 16,000㎡ 校庭面積 ①約 3,850㎡ ②約 870㎡ 合計 約 4,720㎡
配置イメージ	 <p>近隣商業地域 ← 第二種中高層住居専用地域</p> <p>北通用門</p> <p>東通用門</p> <p>西通用門 (正門)</p> <p>環状7号線</p> <p>150mトラック 直線80m走路</p> <p>既存体育館</p> <p>既存校舎</p> <p>中学昇降口1</p> <p>既存プール</p> <p>公道 (4.0m)</p> <p>公道 (5.4m)</p> <p>S=1/1800</p>	 <p>近隣商業地域 ← 第二種中高層住居専用地域</p> <p>北通用門</p> <p>東通用門</p> <p>西通用門</p> <p>環状7号線</p> <p>150mトラック</p> <p>仮囲い</p> <p>小・中学校 昇降口</p> <p>新設東通用門</p> <p>新設正門 (工事門)</p> <p>屋上プール エリア (中)</p> <p>屋上プール エリア (小)</p> <p>屋上活動 エリア</p> <p>給食車輛</p> <p>公道 (4.0m)</p> <p>公道 (5.4m)</p> <p>S=1/1800</p> <p>6階 5階 4階 3階 2階</p> <p>校庭エリア 改築校舎 既存校舎 6m幅員・ 2項道路幅員確保の 為に必要なエリア</p>	 <p>近隣商業地域 ← 第二種中高層住居専用地域</p> <p>北通用門</p> <p>東通用門</p> <p>西通用門 (工事門)</p> <p>環状7号線</p> <p>120mトラック</p> <p>校庭①</p> <p>仮囲い</p> <p>小・中学校 昇降口</p> <p>新設東通用門</p> <p>正門</p> <p>校庭②</p> <p>屋上プール エリア (共用)</p> <p>屋上活動 エリア</p> <p>給食車輛</p> <p>公道 (4.0m)</p> <p>公道 (5.4m)</p> <p>S=1/1800</p> <p>6階 5階 4階 3階 2階</p> <p>校庭エリア 改築校舎 既存校舎 6m幅員・ 2項道路幅員確保の 為に必要なエリア</p>
学習・生活・交流	<p>普通教室 (配置・採光・通風)</p> <p>教室間の動線 (回遊性・距離)</p> <p>校庭 (日影・広さ・レイアウト)</p> <p>アプローチ計画 (門・昇降口・ 歩車分離)</p> <p>屋上活動エリア の確保 (プール・広さ)</p> <p>仮設校舎の有無</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外部に面した北、東、西に配置が可能であり、多様な平面計画が可能。西側に配置する場合は、西日対策が必要。 中庭に面した場合でも、中庭からの採光と通風確保が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 南北に長い校舎となるため、外部に面した東、西側配置となる。採光・通風が確保出来るが、西側に配置する場合は西日対策が必要。
<ul style="list-style-type: none"> 回遊性のある平面計画が可能。移動動線内を交流空間として計画することで、児童生徒の交流を促す計画が可能。 		<ul style="list-style-type: none"> 回遊可能な平面計画だが、南北に配置した教室への移動動線が長い。 	
<ul style="list-style-type: none"> 最も校庭面積を広く確保出来る配置計画。 校舎の日影の影響を受けるため、校庭の路盤仕様の配慮が必要。 野球等のレイアウトがしやすい整形な校庭。 150mトラック、直線80m走路の計画が可能。 		<ul style="list-style-type: none"> 動線により校庭が分割される配置計画。分割されたエリアを低学年用の校庭として計画することで、安全性の向上を図ることが可能。 一部校舎の日影の影響を受けるため、校庭の路盤仕様の配慮が必要。 不整形なグラウンドのため、野球等のレイアウトが難しい。 120mトラック、直線70m走路の計画が可能。 	
<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の登下校の動線は、新設の正門と東門の利用を想定。 給食車輛等は南東側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。 		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の登下校の動線は、既存正門と新設東通用門の利用を想定。 給食車輛等は南東側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。 	
<ul style="list-style-type: none"> 屋上部にまとまった面積を確保が可能。小・中学校専用のプールを計画が可能。 屋上活動エリアは約990㎡確保可能。 		<ul style="list-style-type: none"> 法規制による建物の後退が生じ、屋上部にまとまった屋上利用面積を確保しにくい。小・中学校共用プールとなる。 屋上活動エリアは約900㎡確保可能。 	
<ul style="list-style-type: none"> 既存校舎をそのまま利用が可能。校庭等の諸課題はあるが、工事前とほぼ同様の学校運営が可能であり、生徒への心理的負担も少ない。 		<ul style="list-style-type: none"> 既存校舎をそのまま利用が可能。校庭等の諸課題はあるが、工事前とほぼ同様の学校運営が可能であり、生徒への心理的負担も少ない。 	
環境周辺		<ul style="list-style-type: none"> 日影については、最も近隣への影響が少ない計画。 南側の住宅地への校舎の圧迫感やプライバシーへの配慮、体育館利用時の音の配慮が必要。 東側の住宅地への日影の配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 南側の住宅地への校舎の圧迫感やプライバシーへの配慮、体育館利用時の音の配慮が必要。 校舎が南北に長いため、東側の住宅地への日影や建物の圧迫感等を影響範囲が広く配慮が必要。
工事関連	<ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎が不要な計画であり、全体建設工期短縮とコスト縮減が可能。 比較的工事エリアとエリア内における工事車輛動線を確保しやすい。 既存校舎の解体工事エリアも確保しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 仮設校舎が不要な計画であり、全体建設工期短縮とコスト縮減が可能。 比較的工事エリアとエリア内における工事車輛動線を確保しやすい。 既存校舎の解体工事エリアが確保しにくい。 	

配置計画案の比較検討

それぞれの 特徴について	C. 北側配置案 (仮設校舎あり)	D. 北西側配置案 (仮設校舎あり)	
配置イメージ	 <p>建築面積 約 4,230㎡ 屋上活動エリア 約 1,100㎡ 延床面積 約 17,050㎡ 校庭面積 約 3,650㎡</p>	 <p>建築面積 約 4,600㎡ 屋上活動エリア 約 900㎡ 延床面積 約 16,720㎡ 校庭面積 約 3,440㎡</p>	
学習・生活・交流	普通教室 (配置・採光・通風)	<ul style="list-style-type: none"> ・外部に面した東、南面に配置可能であり、安定した採光と通風を確保しやすい。(一部北側配置となる。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・南北に長い校舎となるため、外部に面した西、東側配置となる。採光・通風が確保出来るが、西側に配置する場合は西日対策が必要。
	教室間の動線 (回遊性・距離)	<ul style="list-style-type: none"> ・回遊性のある平面計画が可能。移動動線内を交流空間として計画することで、生徒の交流を促す計画が可能。 ・法規制による建物の後退が生じ、低層階は高層階への直通階段の配置が出来ないため、北側教室から高層階への動線が長い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・回遊しにくい平面計画。 ・法規制による建物の後退が生じ、低層階は高層階への直通階段の配置が出来ないため、北側教室から高層階への動線が長い。 ・南西側の普通教室からの北側教室への動線が長い。
	校庭 (日影・広さ・レイアウト)	<ul style="list-style-type: none"> ・法規制による建物の後退が生じ、校舎が南北に長く校庭面積が小さくなる。 ・建物の影の影響を受けない南側校庭の確保が可能。 ・野球等のレイアウトがしやすい整形な校庭だが、面積的に部活動の併用が難しい。 ・120mトラック、直線70m走路の計画が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南側配置となるが、西側に教室があるため西日による建物の影の影響を受ける。 ・校庭面積が小さく不整形なグラウンドのため、野球等のレイアウトが難しい。 ・150mトラック、直線70m走路の計画が可能。
	アプローチ計画 (門・昇降口・歩車分離)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の登下校の動線は、既存の正門と東通用門の利用を想定。 ・給食車輛等は北側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の登下校の動線は、既存正門と新設東通用門の利用を想定。どちらの門を利用しても昇降口が遠くなる学年がある。 ・給食車輛等は北側からの動線とし、歩車分離が可能な計画。
	屋上活動エリアの確保 (プール・広さ)	<ul style="list-style-type: none"> ・法規制による建物の後退が生じ、屋上部にまとまった屋上利用面積を確保しにくい。小・中学校共用プールとなる。 ・屋上活動エリアは約1,100㎡確保可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法規制による建物の後退が生じ、屋上部にまとまった屋上利用面積を確保しにくい。小・中学校共用プールとなる。 ・屋上活動エリアは約900㎡確保可能。
	仮設校舎の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地南側に仮設校舎(3階建て)、仮設体育館(バスケットボールコート1面)エリアを確保が可能。東側からの入口の新設が必要。 ・別途、代替施設の検討も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地南側に仮設校舎(3階建て)エリアを確保出来るが、仮設体育館エリアを確保出来ない。東側からの入口の新設が必要。 ・別途、代替施設の検討も必要。
環境周辺	敷地周辺の影響 (日影・圧迫感・視線)	<ul style="list-style-type: none"> ・北、東側の住宅地への日影の配慮が必要。 ・北、東、西側住宅地への校舎の圧迫感やプライバシーへの配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北、東側の住宅地への日影の配慮が必要。 ・北、東、西側住宅地への校舎の圧迫感やプライバシーへの配慮が必要。
	工期とコスト	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設校舎の場合、建設工期とコストがかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設校舎の場合、建設工期とコストがかかる。
工事関連	<ul style="list-style-type: none"> ・改築校舎が工事通用門と正門に隣接するため、工事エリアやエリア内における工事車輛動線の確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改築校舎が工事通用門と正門に隣接し、工事車輛の入口を塞ぐ配置となるため、工事エリアと工事車輛動線の確保が最も難しい。 	

配置計画案の比較検討(日影と断面イメージ)

